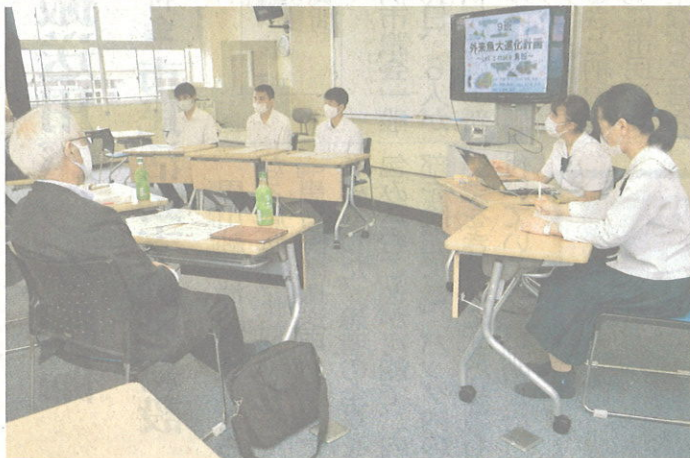


# 投票率向上へ生徒と対話

佐野市議会



市議と意見交換をする佐野高校生

【佐野】若い世代に身近な政治への関心を高めてもらい、選挙離れに歯止めをかけようと、市議会が高校生との対話事業に乗り出した。市議12人がこのほど佐野高を訪れ、初めての訪問型議会報告会を開催。生徒からはクリケットを活用した国際化など、まちづくりに関する提言もあった。議会報告会運営委員会の井川克彦委員長(63)は「貴重な意見をたくさんもらえた」と話した。(竹内美鈴)

## 高校訪問、まちづくり論議

県選挙管理委員会によると、昨年4月の県議選の投票率は40・44%だったが、10代は29%にとどまった。

このため、議会報告会運営委員は、議会の役割などを高校生に紹介し、政治やまちづくりについて考えてもらう機会を設けようと、今回の取り組みを企画した。

市議は11日、国際的に活躍できる人材の育成を目指す文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」(SGH)に指定されている同校を訪問。初めに井川委員長が生徒らに、議会に

ついて説明した。

その後、同校に60以上あるSGH活動班のうち「クリケット班」「多言語メニュー班」などに所属する生徒が、日頃の活動成果を発表。クリケット班は外国の代表チームとの交流会の様子を交え、クリケットを通じた国際交流の地域への効果などを紹介した。

生徒らの具体的なまちづ

くりに関する提案に、市議が感嘆の声を上げる場面もあった。クリケット班の班長を務めた3年店網泰吾さん(17)は「研究成果を市議の皆さんに発表できてよかった。将来は佐野を活性化させる仕事に就きたい」と語りつつ、今回の報告会について、井川委員長は「高校生がここまでまちづくりに関心を持って考えていることに驚いた」と感想を述べ、「今後も若者との交流を続けていきたい」と話した。